

豊田中央クラブ (中学軟式野球)



2025年



クラブ紹介



チームの歴史と主な戦績

全日本少年春季野球大会

全日本少年野球大会

中日少年愛知県大会

3大大会

県大会

市内大会

2020年

3月に一般社団法人、梅坪・浄水スポーツクラブの野球教室として1期生7名でスタート。

2021年

2期生17名が加入したと同時に豊田市軟式野球連盟に登録を申請、「豊田中央クラブ」として4月からの大会に出場

2022年

この年初めての選考会を開催し3期生が新たに18名加入。1期生が全日本少年野球予選で初優勝し初の県大会に出場した。この年から友好会に参加

2023年

4期生が新たに17名加入。2期生が中日少年野球予選で初優勝。県大会に出場した。

2024年

5期生19名加入。総勢52名となりチーム目標でもある3大大会の県大会ベスト4に挑む。

39回全日本少年愛知県大会
初戦敗退

68回中日少年愛知県大会
初戦敗退

39回全日本少年地区予戦 優勝

68回中日少年予選 優勝

13回全日本春季予選 準優勝

14回全日本春季予選 準優勝

15回全日本春季予選 準優勝

69回中日少年予選 準優勝

67回中日少年予選 ベスト4

40回全日本少年予戦 ベスト4

40回全日本少年予戦 ベスト4

16回全日本春季予選3回戦

66回中日少年予選 1回戦



理念（ビジョン）

1. **こどもの成長を中心に**指導します
2. 野球を通じて現在や将来に**明るい希望を持てる指導**を行います

目的（パーパス）

1. 選手にスポーツマンシップを獲得させます
2. 生涯にわたって自立・自走を実現できる人に育てます
3. かかわる誰もが共育し、成長するためにチームの活動を行います

チームスローガン（ぎょうほうふくつ）



1. **高い志をもつ** 夢・目標・目的・課題を設定して取り組む
2. **困難に立ち向かう** 問題・課題を分析し、改善、向上を実践する
3. **挑み続ける** 上記を常に意識し、具体的に挑戦し続ける

スポーツマンシップ

Sportsmanship

Good Game を実現しようとする心構え

Good Gameを実現する条件とは

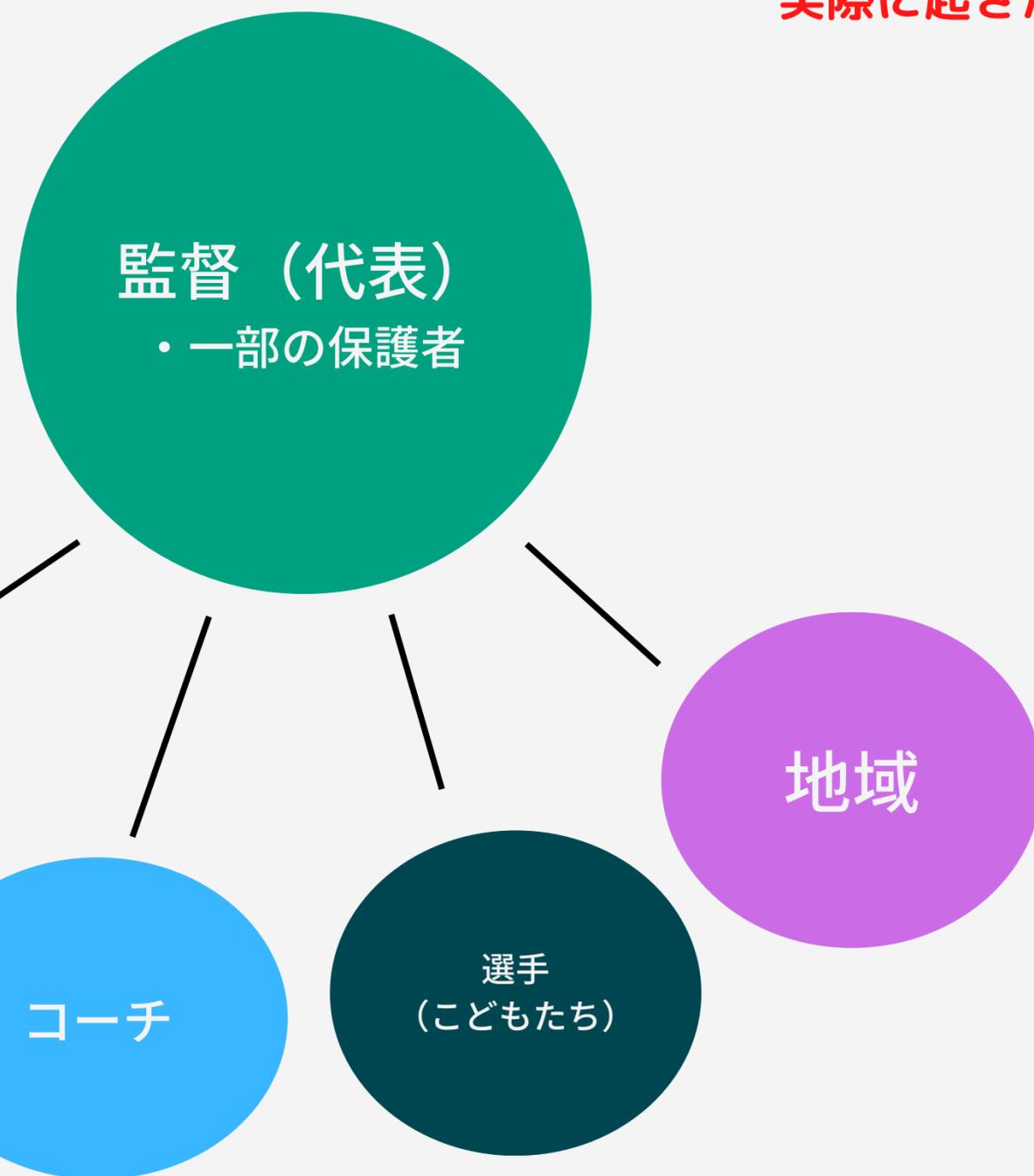
- Respect : プレーヤー（相手・仲間）、ルール、審判に対する**尊重**
- Challenge : 困難を恐れず、責任を持って決断し、行動する**勇気**
- Enjoy : 勝利をめざして最後まで全力を尽くして愉しむ**覚悟**

こんな形でいいの？

実際に起きた事例を考える

◆従来の形

監督の支配下に選手、コーチ、保護者、地域があり、監督が意のままに動かす組織



1. 独裁や暴走

- ・監督など一部の人の「独裁」や一部の保護者の「暴走」がおきてしまった。
- ・3年生の親が最も偉くて、下級生の親はその言うことを聞かなければならないという不文律が存在
- ・入団者や入団家族のミスマッチ（聞いていた話と違う）

2. それぞれの子どもや家庭の温度差

- ・野球の結果で判断、子どもの成長にフォーカスできないので意識の濃淡を解消できない。
- 「甲子園や高校野球というワードで子供たちを指導」

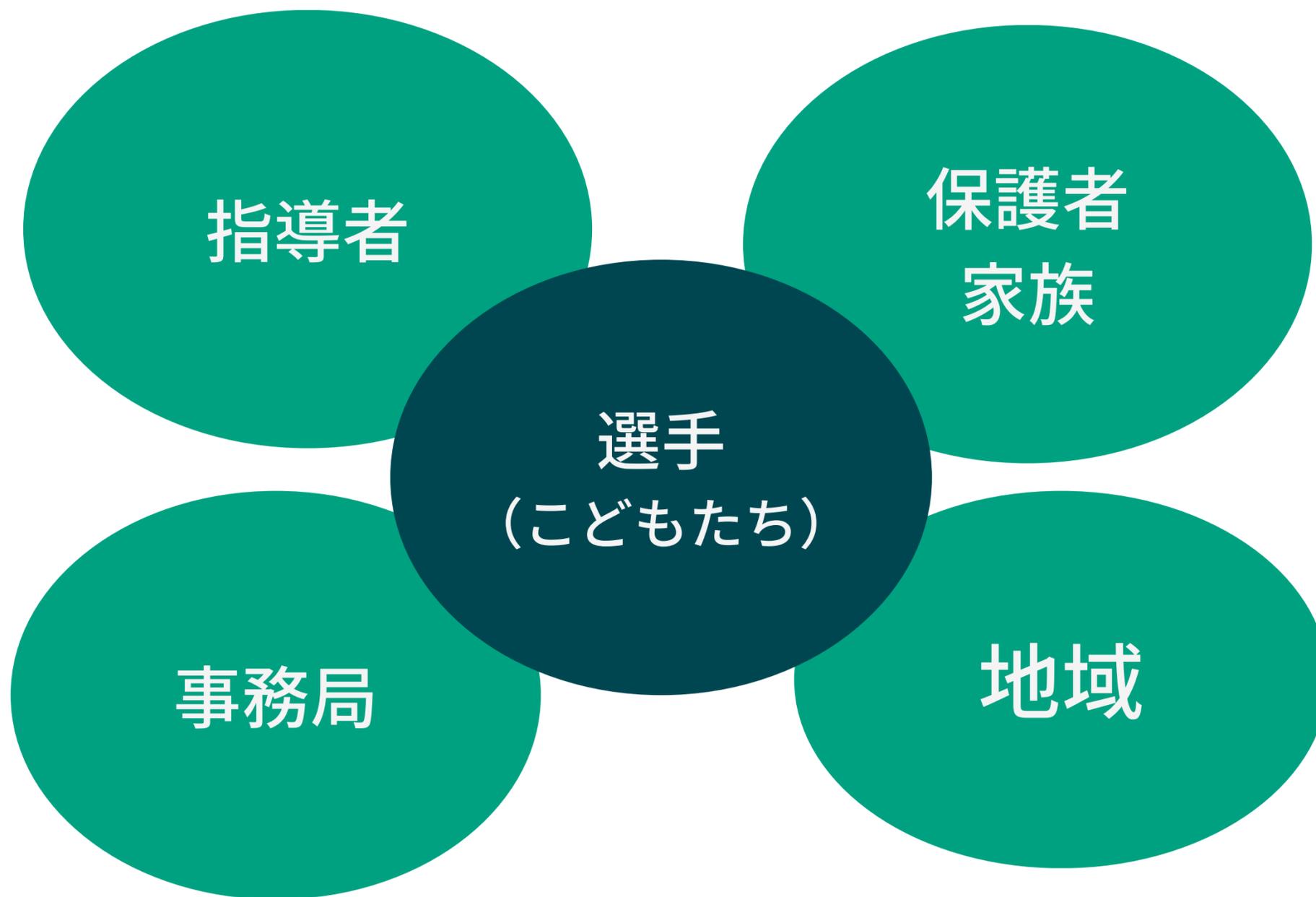
3. 大人（保護者、指導者）も成長、そして

- 楽しむためとしないと、持続可能なものにならない・所属満足度が上がらない
- みんなのWell-Being創り出す
- 勝ち負けだけでないチームの「価値」を創り出す

プレイヤーセンタード

現代型組織のイメージ

選手を真ん中に置いて考える



”プレイヤー・センタード”とは
中心となる選手はもちろん、選手を取り
巻く親や指導者、大会運営者や観客
なども相互に成長していくことを目指
しチームに関わる人々の所属満足度を
高めていく考え方。



豊田中央クラブ ステークホルダーコード

(チームに関わるすべての人が共有する指針)

- (1) コーチコード
- (2) プレーヤーコード
- (3) 保護者コード
- (4) 管理者（事務局）コード



コーチ（指導者）コード

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. 発達期では楽しいを最優先とし、基本スキルを向上させポジションの専門化を避ける
2. 指導者が、スポーツマンシップを正しく理解し、実践・指導できるように貢献する。プレーヤーがチャレンジしたことを大いに評価する。
3. 日常的にコーチとしての学びを怠らない。特に野球のスキル以外（発育発達、心理学、救急措置、運動生理学、教育学等）は重要視すること。学ぶことをやめた時、教えることをやめなければいけない。
4. 誰一人取り残さないよう、一人ひとりに寄り添って話を聴き、適切な対応をとる。
5. プレーヤーが自立、自走できるよう、練習のデザインを常に考える
6. プレーヤーに危険が迫った場合、また他人を傷つける言動、行動があった場合にはすべてを止めて即時に指摘・指導する。

豊田中央クラブのプレーヤーコード

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. すべての活動において自分自身の成長を促すことを第一とする。仲間や周りの人たちと喜びを分かち合えるようプレーする。
2. 正しい競技規則に従ってプレーする。
3. アンパイア（審判）の決定に対して文句を言わない（伝えるなら手順を踏む）。
4. 自分自身の感情をコントロールする。
5. 自分のことは自分です。自分たち（チーム）のことは仲間と協力し、自分たちです。
6. チームメイトおよび相手の良いプレーを認め、ほめる。
7. コーチ、チームメイト、保護者、関係者そして相手や連盟、審判など周りの人を尊重し（スポーツマンシップの実践）協力・協働する。

豊田中央クラブの保護者コード

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. プレーヤーが成長するための支えが保護者であり、時には指導、支援、伴走をしながら、保護者自身も成長することを常に考えること（共育）。
2. 全ての人に対して温厚な立ち居振る舞いをし、チームが上手に回るよう他者の尊重をする。
3. プレーヤー、コーチ、他の保護者、相手チームおよびアンパイアに高圧的な態度をしない。
4. 子どもの父親（母親）は、あなた一人である。家庭では、唯一無二の愛情を注ぐこと。
5. 対戦相手に敬意を払い、良いプレーに対しては認める。ほめる。ミスを誘う・喜ぶ言葉を使わない。相手なくして試合は成り立たないのであるから。
6. 暴力・暴言・威圧・人権侵害の行使を非難する。
7. 子どもには子どもの言い分がある。子どもの話を最後までしっかり聴いてあげる。それに対するジャッジメントは子どもの理論のみが正解とは限らない。
8. プレーヤー以外の家族、きょうだいの幸せも考え、野球がすべてではないことを認識する。

豊田中央クラブの管理者（事務局コード）

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. すべてのプレイヤーに参加のための機会を平等につくり出す。
2. すべてのステークホルダーが円滑に回るよう配慮を怠らない。
3. 用具や施設、環境がプレイヤーのニーズや特性をよく考えたものであるようにする。
4. プレーヤーの成熟度に合わせて、活動環境、時間、強度を変える。
5. 理念、目的、目標や他の行動規範 コード を配布し、それらがよく知られるようにする。
6. チームに関わる全ての人達は、フェアプレーに対して同様の責任を持っていることを知らせる。
7. コーチおよびアンパイア、スコアラーなどを育成・訓練するための講習会を準備する。
8. チーム外の関係者にチームのことを知ってもらうよう、活動の明確化を図る。